

## 六・一五の全国状況と問題点について

われわれは、七回大会以後の以後の諸斗争を闘うなかで、全国六地方において六・一五集会をわが同盟のほとんど独自組織によってかちとった。

この集会の組織過程を通して、①七回大会以後のわが同盟が全国各地の戦斗的部分のなかに影響力を拡大し、かつその定着化を徐々にではあるが確実に実現しつつあること、②のみならず、これらの問題はわが同盟の全国的政治指導力の貫徹を顕証したが、さらに政治組織的に一段と習熟した訓練が要求されていること、を明らかにしている。

さらに本年度の集会は周知のような党派状況のなかで用かれたことは、③いゆゆる「統一戦線」問題に重要な課題を残していることを確認しなければならない。

① 具体的結集状況と本集会の全体的意義

中央集会 実数 一四〇〇

北海道集会（札幌） 一三〇

仙台集会（夜昼二回）合計一三〇

愛知集会 一五〇

関西集会 四五〇

岡山集会 九〇

中央集会は昨年度十二・七集会をまわった結集によってかちとられた。このことは同盟七回大会を経るなかで、解党主義的分子水沢一派の脱落と悪質な分裂工作によってわが同盟活動に対する戦斗的部分、支持者の信頼を大きくすすことができず、かえってこの向の斗争によってわれわれの組織的力量的強化が志向されつつあることを示すものである。のみならず本中央集会所用された特殊の諸

条件、とりわけ日比谷野宮において、社民、中核、革マル、青解放派、およびその関連諸組織が大合同して反代々木の大衆を結集した集会が同時に開かれていたという条件を考慮する場合、中央集会の石の意は正確に確認しうるものである。

中央集会におけるこの意はほぼ全国的規模において同様に確認しうるであろう。

北海道においても、仙台、愛知においてもそのかぎりで大衆的影響力は着実に前進しつつあり、岡山においては六・一五初の独自結集で一潮流としての存在を公然化させたのみならず、単なる異質的集団としてではなく、その出発点より大衆的結集力を蓄えてあらわれた。

われわれは、本年六・一五集会を同盟独自の活動として提起し、かつまたそのようなものとして実限した以上、その内的総括の基本的な点はまずこれらの活動そのものの総括でなければならぬ。そしてつぎにわれわれは、

これらの総括をさらに全体的政治的・党派的な諸問題のなかで再点検するという二重の総括作業を遂行しなければならない。その理由は、まず六一に六・一五集会そのものの特殊性にある。六・一五がわれわれの主目的、指導的集会として組織されるべきことは自明の前提であり、このことについてはその政治的理由をここでくり返す必要はない。たゞ必ずであったことは、統一行動に大衆闘争一般論がけはびこっていることにはたいして、党派として断乎とした主体的対応を堅持することが必要でありまたその意志統一の結果としてのみ集会がかちとられていった。

中央集会においては、その量的結集の内容においてわれわれは決して十分な成果をあげ得たとするにはできない。都段階においての努力にもかかわらず、集会参加者の労働比は、昨年十二・七の線をこえることはできなかった。これは、われわれのオルグ対象の公労協系労働者が組織決定によって日比谷集会

参加を強制された等という条件によってそうなったことを考慮しなければならない。だが、反面二のことは、われわれが首都圏労働戦線指導下にある部分に影響力をひろめつゝも、それを外部からゆり動かすための力量を備えるに至っていないものとしてあらわれいている。党派関係の激化、混乱が想定される階級精勢のなかでこの問題はきわめて重要である。そしてつぎにこの問題は労働戦線に対する党的指導力の強化にかゝるものとして向われているし、首都における常任活動家の配置とその定着化をさらに次のわれわれの政治集会への成果として集約しなければならぬ。

本集会における党的結集力の問題は全国における各集会を通じて向われた問題である。

関西集会においては労働結集比はほぼ半ばする状況であったが、京都学生の結集が実現しなかった結果、(選挙、等)としてこの比率であることを考慮すればさらに地区を軸とした党的活動・労働戦線からみれば、参加大

学を増加(神戸地区等)、大阪学生戦線の強化が特徴的でこれらは党的展開と直結し、労働戦線への展望をきりひろくかたちで発展させられねばならないであろう。その他各地における集会結集力はいずれも各級機関と組織的力量、体制の問題として点検されなければならない。だがわれわれはこの問題を単に組織体制の問題としてのみ提起しているのではない。

### 集会に対する政治的基調

われわれは本年六・一五集会をASPAC―成田・沖繩闘争への政治的意志結集をもちとることと本集会の政治的目標とした。全国的にみた、この方針はほゞ維持されていったが、結果的にみて、この斗争への政治的方針へ意志結集が完全に集約されたとはできない。

それはなによりも各地指導部のなかにおける基調報告の基本線、集会全体の集約意志統一が不明確であったことによる。一般的

政治方針を語る結果として、斗争の統括上の問題、性格の問題、戦術の問題等、あらゆることが具体化し、きわめて多彩なものでならざるをえない。かぎられた時間におけるもつとも強固な意志統一をかちとるといふことは、技術、ことに政治的技術の初歩的な目標である。そしてこのことは個人の能力の、政治思想と理論の問題である以上に、まず第一に指導部の政治組織的意志統一の問題である。集分の基調については、第二に地方の最高指導部の提起に基いて細胞段階にいたるまで徹底的な意志統一をかちとることが重要である。これが組織力の中心問題になること、このこととをわれわれは確認しておく。

われわれは本集会において全国的に政治的に統合された、基準線をもつて全国の戦斗的労働者、学生のみえに立ちあらわれることができた。しかしこの政治的基本路線へいかに支持者、圧力的大衆を結集し、斗いの戦列に加えてゆくためにはとらに政治組織的な

習熟を重ねなければならぬ。これは技術の問題ではなく、同盟の各組織の政治組織的基本的態度にかゝるものである。  
(以下次号)

- ② 中央日比谷集会と諸派の誤謬
- ③ 統一戦線問題について

（原稿を添く）  
派関係を6分にも貫徹せねばならぬ。路線の優位性と運動の物質力、中核派の四角斗争埋没主義とのリレー、あらゆる日和見主義派を精確して、ア口統一戦線を革命的に再編するべきである。

④ したがって、われわれは七月ASPAAC全国結集斗争とホ米戦の当面の諸派派の關係と態勢をかため、不動のヘゲモニーをうちたて、以降の全学連大会、反戦再編の斗争を勝利的に進めるべく、反戦、全学連の全力衝動を闘いとれ、この中央から、五〇人の恒帯はリつけ体制、ASPAACへの成田人民の結集を闘いとれ、京葉地区党への不坂の進展を開始することである。

### 6.21斗争の画期的成功をふまえて、 7月ASPAAC兵力阻止めざし、6.30三 里塚ホ米戦全国結集斗争を闘いぬけ

工場の斗争の成果と今後の課題

七〇年安保粉砕の斗いと、日帝の侵略、反革命の總路線に対決し、支配階級の危機を七〇年代に連綿的に革命のア口強に転化するわれわれの戦略的方向は、五月以降の具体的環境として、沖縄奪還斗争をのりこえ、日帝の内外にわたる帝國主義政治の展開の画期をにぎる七月ASPAAC粉砕斗争に設定されてきた。この全学連中央結集斗争は、29竹学の爆発に現時機の下全政治過程を形成、収斂せしめるべく設定された。それは、圧倒的な組織部隊、「ヤニ戦線」未組織大衆の結集によつて、万衆の大斗争を現出した。（詳細「戦旗」）

その基本線指針は以下のとおりである。

① 総路線対決に全政治斗争の主軸を形成する  
ことと、ASPAACに対する全党派のおどろく

べき輕視と無自覚の中で、七月下旬をひかえてASPAACを先制的に政治斗争の全焦点とし、あらゆる昂揚の動きをASPAAC斗争に集中していく当面の斗いの環の現実化と流動状況のなぐとく、この当面の設定の眼目のカ一点を實現されたことを確認しなければならぬ。このことは日帝の七〇年安保のかくとく目標を現在の形成する路線決定の具体的環ASPAACと、七〇年安保斗争におけるアロレタリア政治斗争の核としてひきあげられ、帝國主義政治に対する先制的実践的態勢を形成しゆく日帝總路線対決斗争の目的意識性が、政治斗争の主尊的地位に定着しはじめたことを意味する。

② 同時に、われわれの政治路線が、つねに斗争、組織形態と結合して提出されることへの待望が、6.21斗争において七〇年安保斗争が闘われる形態への持直として、二つの羽田以来の新しい歴史の創出が、SSMの党派組織部隊の独裁的領導を媒介して「占拠」バリケード「街頭市街戦」、激突をもつた攻軍戦が民主主義派大衆の「E」隊列への直接的結集と中核大衆の斗争のや

イナミズムによる戦斗化を組織したことである。それは東洋斗争と大衆斗争の一体化された結合（中大ストの不発にもかゝわらず）というかく目標がまさに二つの羽田以降のすべての斗争の域を突破し、度へ総路線対決（量へ万衆の大衆斗争）的に市場を深化させた点にある。

③ニラして、6/21斗争は、五月以降の反動小局面が帝因主義の侵略、抑圧、反革命に抗する絶える大衆の斗いへとりわけ大小の、米軍基地、自征隊基地斗争、軍需物資阻止斗争、東大、医科歯科をはじめ日大にも爆発した諸斗争であるいは、6/15大阪の大の年号係以来の戦斗的大デモ等）によつてうちく不たいてきたなかで、そういう個別的あるいは地方的諸斗争の示す堅忍性、暴力性とは、その結合、発展転化すべき七〇年安保精神の現在の政治的現実の基軸と斗争形態の飛躍を与えることによつて、七〇年号係斗争をコミューン・ソヴェト型斗争として現に実践的に相成していく画期をきりひらいたのである。

④そして、まさに日帝の七〇年代に対応する侵略、反革命は今日政治的イデオロギーの上部構造、とりわけ政治委員会の脆弱性に規制されていながらも、それをマルジョア独裁の公然たる反革命的敗化の方面で、政治委員会形骸がうたがひ破せんとする参院選後、十二月自民党大会にかけた政治過程に、あらゆる自然発生的的斗性とのマルジョアシーの凶進を先制的につくことによつて、階級階級と革命へ転化する基本戦術に現実を統合する過程の始まりこそ、アラバンス五月危機における左翼の限界を日本に押しつけて突破しゆく行程であるから、これを主導する同盟軍力の戦術展開のための集約的力をもつとも次第的につける位置をおしあけられたことである。

⑤このことは、總体としての革命的左翼の、在共上とつて行われる態勢の強化、大衆の市場の広がりの中で「三派」全学連、三派主尊東京反戦の党派的介解の拍車傾向と統一戦線模様の機能

マヒが進展する状況（それはまさにわれわれが七大会で明らかにしたように七〇年安保をめぐる階級斗争が、既成の支配、被支配関係の根本的転換として旧来の諸政党・大衆の結合を再編するものであり、かつ、それは社会にとつてかけがえのない革命的任務の独創的ハゲモニーによる再編と綱領的・実践的に要請されていること）は、反共、全学連のフロレタリヤ統一戦線へむけての革命的再編を、わが同盟の総路線対決斗争の堅持とそれが大衆的市場を直ちに結集する過程の任務を死守することによつて追求せねばならないことを意味している。

⑥すなわち、総路線対決斗争への結集を、いわば象徴的に6/21斗争部隊の相成要素一すなわちわれわれB-S-S-Lを核心とする革命的部方とそれな組織した意識的大衆、その斗争が動員した膨大な反政府的勢力をもつた大衆の三者相成区、相造的に向上させることが眼目であり、このことは次の基本案において政治一組織路線とその具体化を緊要に要請するのである。

第一には、綱領的結集への党派自斗争は、四

実践的戦略展望をこころ核心とするフロレタリヤ国際主義派の強固な確立をめざしておし進められるべきこと、これは「侵略、反革命対決」が直接にフロレタリア政治に高める方向めがけて革命論としてめざらなければならないこと。

第二には、実践的側面において、現在の個別諸契機による大衆的市場の民主主義的大衆を一貫してフロレタリア政治に高める方向めがけて、沖縄米軍政均等に呼応する成田を天王山とする本土における軍事力強化反対、諸基地斗争をAAAC以降の環として設定しゆくこと。

第三には、この環の物質力強化が統一戦線とそれのハゲモニーづくりのべきである。

第四には、フロレタリア期突と斗争の重案に對峙した、全国的野党組織を建設する党組織斗争の計画化によつて、諸斗争を媒介することである。

第五は、これをこそ、三中委にかけられる主要任務としてめざらなければならない。

第一には、綱領的結集への党派自斗争は、四

② 6/30 成田現地斗争に全回結集し、水決戦体制確立―日帝總路線対決・ASPAC 粉砕の戦線と拡張せよ

6/30 成田現地斗争のとりくみ状況と位置取り  
わねわねの任ふに於いてはすでに「戦後」論に明らかである。補足、確認すべきは次の諸点である。

① 成田斗争は七の年安保の衰、沖縄斗争の本土に呼応した斗争として、その支配階級ランの实际的阻止の斗いの堅持が、統一する諸基地斗争を攻勢的に展開せしめうる天王山であること

② ことに当面の水決戦をたえぬが、反異することから、秋以降の斗争の勢、沖縄―本土基地斗争の態勢を形成すること。6/30は七月の恒常的現地斗争体制の強化を現地―全回を結んで決戦に備える態度であること。

③ とりわけ重要なのは、成田空港と日帝の侵略拠点としてとらえることこそが、あらゆる枚力の累圧をけつて斗争を持続するために高度の

意図性を要求する斗争であることは、社共の脱落を示すのみならず、解放派の経路主義的百選として現われている。6/30は現地同盟と日及び中核派を中心に斗われる。このことは、Bの斗争とりくみの弱体化がもたらあるならば、三里塚斗争の崩壊の危機が生ずることを意味している。

そして、6/30とそれ以降のBの対抗の強化を画して天王山としての位置を保持せしめることが新たな、革命的左翼に領導された成田斗争と基地斗争の革命的大衆的昂揚と結合し、政治斗争全体に新たな局面とするたろうことである。

④ そして、六月斗争における党派関係は七月以降にむけて当面確定する地位を6/30斗争はもっていることである。おねわち、革共同は五月六月の劣勢を基地斗争―安保粉砕の方向で、6/30全回結集による党派的まきねえしを行い、七月中旬以降八月のホーリング決戦体制―契にむけて、全学連大会―党派的危機を防止しようとして、わねわねは断乎、全回總決集、ことに反戦を基軸にかちとり、6/21の有利な党

へ4頁つづく